

きれいに暮らす

奈良県スタイルジャーナル

VOL.

15

2021 MARCH

奈良らしい
景観を目指して

舟戸二丁目クリーン会

住みこちランキング全国1位!
そのまちのきれいを実感

民間研究所の「街の住みこち自治体ランキング全国版・2020」で、昨年全国1位に輝き、話題となった王寺町。花や緑で彩るきれいなまちづくりがその理由の一つでは、と語るのは、地域の美化活動を20年以上続けている、舟戸二丁目クリーン会です。



舟戸二丁目クリーン会 会長

みやけ しゅうじ
三宅 秀治さん

住民による清掃活動から
花いっぱいのもちづくりへ

王寺町の北部、JR大和路線と近鉄田原本線に挟まれたエリアが舟戸二丁目です。戸建て住宅が整然と並ぶ閑静なまちを少し散策すると、ほとんどのお宅の前に鉢植えやプランター。皆さん、花や緑を暮らしに取り入れ、楽しんでいらっしゃるようです。

舟戸二丁目クリーン会は、この地域で、清掃と花の植栽を20年続けてきました。会長の三宅秀治さんに活動のきっかけをうかがうと、「王寺町からCCC※活動への参加を呼びかけられて、じゃあやるうとメンバーを勧誘したら、なんと最初は100名以上も集まりました。もともと町内会清掃のかたちで美化活動は実施していましたから、自然な流れだったのだと思います。これをきっかけに『まち中を花いっぱいにして』ということになりました」。

活動を長く続けていくために…

会による花の植栽活動は、まちの児童公園から始まったそうです。そのうち、小学校前の植栽も任せられるようになり、「毎日の作業は、会員全員の手回りです。公園の様子を見に行き、清掃や草引きをし、必要なら花の水やりも行います。6月から10月には、有志20名ほどが交代で、小学校

前の植栽の散水もしています」と三宅さん。

このほかにも、初夏と秋には、植栽の年次作業が待っています。6月にベゴニア、11月にはパンジーをそれぞれ700株、130基あるプランターと、一部は花壇に植え替えるという大仕事です。



月次作業では、清掃、植栽の手入れと剪定も

会では、このような植栽活動に加え、清掃活動にも積極的に取り組んでいます。現在の大きな活動としては、大和川一斉清掃と、町内規模の清掃がそれぞれ年2回。このほか、月次作業もローションで実施しています。

このような充実した活動ぶりにもかかわらず、会費は無料で、自治会からの助成も無いとか。「王寺町のCCC活動と花いっぱい運動に登録しているので、植栽や清掃に必要な用品は全て王寺町から提供していただけるんです」。

「まちをきれいにしたい」という住民



上 日ごろから手入れしている児童公園の花壇の前で
下 児童公園の花壇も年2回植え替えを実施



年次作業では、全員で花の植え替え作業を実施

の方々の思いから始まったこの活動。それが20年も続いている理由は、会の皆さんの情熱だけではなく、平日頃からの作業分担などの工夫や、王寺町との連携によるものでしょう。

花のまちづくりは楽しい！ 幅広い世代に波及させるために

三宅さんによると、活動を長く続けていく中で、波及効果も出てくるようになったとか。「きれいに掃除してあるとポイ捨てしにくいんでしょう。まちなかだけでなく大和川沿いの道路も、たばこの吸い殻や犬のフンが随分減ってきたのになっていきます」。

近所の子どもたちにもうれしい変化がありました。「近ごろは知らない大人に挨拶するなという風潮がありますが、作業しながら大きな声で挨拶するうちに、子どもたちから挨拶してくれるようになりました」。

ここまで順風満帆に思えるのですが、いま直面しているのが会員の高齢化と若手の不足。新しい会員を募るため、寄せ植え教室を主催したことも何度かありましたが、「人を集めるつもりが、『楽しかった、良かった』



以前には寄せ植え教室も開催



●主な活動場所

た』だけで終わってしまいました」。

最近わかったのが、この会の存在そのものが知られておらず、自治会の仕事と思われていたこと。「PR不足でしょうね。とにかく一度参加してもらえば楽しさが分かり、継続的に活動してくれる人が出てくる可能性があります。今後は、花の植え替えなど『会員でなくても参加してください』と呼びかけることも考えたいですね」。

お話をうかがいながら感じるのは、会の皆さんのまちへの思い。それが花により彩られ、きれいなまちなみを形づくっているのでしょうか。会の取り組みが周辺に波及し、きれいで彩りがあっていくことが期待されます。

※CCC：クリエイティブ・クリン・サークルの略。

王寺町が独自に進めている美化ボランティア活動。美しい町を創造するため、自発的に美化を行う団体を組織して取り組んでもらうもの。

川西町・サークルお花畑

ほんの1坪たらずの活動から、 花いっぱい駅前へ

近鉄橿原線の結崎駅は、川西町の玄関口。ここで、花を咲かせ、環境美化に20年以上取り組んできたのが、川西町・サークルお花畑です。現在は、昨年4月から進められている駅前の再開発工事のため、活動拠点を結崎公民館に移し、新しい“玄関”の完成を心待ちにしています。



川西町・サークルお花畑 代表

まつなみ よしこ
松波 芳子さん

始まりは、熱い思い
4人だけのスタート

再開発工事の前まで結崎駅の西側に隣接する公園は一面のお花畑でした。駅前ロータリーの周辺にも、スペースを惜しむかのように色とりどりの花が植えられ、駅を利用する人、行き交う人にとって癒しの空間になっていました。

この、『駅前お花畑』をつくったのが、『川西町・サークルお花畑』の皆さん。現在のメンバーは19名ですが、当初は4名での出発だったそうです。代表の松波芳子さんは、「平成10年にスタートした時の精神は、単純に『町を花いっぱいにしたい』。ただそれだけの思いで呼びかけて、有志の方と一緒に始めました」。

活動は毎週土曜日の午前中から。現在は、結崎駅構内・結崎公民館・結崎老人憩いの家・町内街路樹周辺等の花壇やプランターで植栽・管理を行うほか、駅周辺の除草や清掃などを実施。長く続ける

には、「ボランティアなので、自由参加が基本。皆さん無理せず、楽しんでいただくのが一番です」。



駅構内でもいっぱいの花で癒しを

きっかけは、横須賀市の
花のまち 久里浜を訪れて

松波さんが、「町を花いっぱいにして」と思い立ったのは、「結婚した娘がたまにたま住んだのが、横須賀市の久里浜というまちでした。訪ねて行くと、駅を降りたところから、ちょっとした空間にもお花が咲いてるんです。道すがら、小さな区画にもお花が植えられて、その管理を担当する団体、たとえば〇〇小学校とか〇〇株式会社など名札がついていました。まち全体にお花畑をちりばめたみたいで、すごく癒されたんです」。

ところが、奈良に帰って来て結崎駅を降りると、「雑草がいっぱいで、がっかり」。普通ならそれで終わりですが、松波さんは違いました。「だったら、ここをお花できれいにすればいいって考えました」。

周囲を巻き込み
エリアを広げて『町おこし』

まず手を付けたのが、駅前の親切・美化県民運動の看板が立っていたほんの1坪たらずの土地。「雑草を抜いて、お花を植えたのが始まりです」。

あちこちに呼びかけるうちに賛同する人も増え、町や地元企業も巻き込んでいきました。使われていなかった奈良交通の土地や公有地を借りてお



上 結崎駅前公園美化サークル・結崎駅前イルミネーション実行委員会のメンバーといっしょに結崎公民館の前で

下 現在は結崎公民館を拠点に活動中



サークルお花畑によって整備されたリナリアやチューリップのお花畑

サークルお花畑の活動に欠かせないのが、同じ駅前で活動する他団体とのコラボレーション。『結崎駅前公園美化サークル』は、草刈機を使った公園整備が得意な団体。花壇や休憩スペースを手づくりするなど、駅前公園のハード整備担当として、サークルお花畑と一緒に活動しています。また、年末の風物詩となっている結崎駅前の大規模なイルミネーション

他団体とコラボしながら 地域交流にも貢献

花畑に。「から耕して、土づくりをして、お花を育てるということをみんなで行いました。いろんな方面のお力添えもありました。全く面識のない農家の方がトラクターを出してくださいったり、鍬の扱い方を教えていただいたり。地場産業の貝ボタン工場からは、研磨した際に出る削り粉をもらいうけて、土壌改良に使用しました。コンクリート会社からは、テストピース（強度検査に使う円柱状のコンクリート塊）を無償でいただいて、土留めのレンガ替わりに花壇を囲っています。」

花壇や水道施設、活動拠点となる小屋『お花畑の家』が整備され、ヒノキ材のテーブルやベンチ、木製のオブジェが寄付されるなど、目覚ましい充実ぶり。翌年には、奈良県の『大和路花いっぱいコンクール』に参加し、表彰されるまでになりました。



●主な活動場所

を手づくりしているのは、『結崎駅前イルミネーション実行委員会』。サークルお花畑は、点灯式で豚汁をふるまうのが恒例になっています。

平成28年からは、お花畑の一角を整地して「コミュニティスペースをつくり、おそろ交流広場」を随時開催。災害時の防災訓練を兼ねて、防災カマドや廃材を利用した屋外調理体験、七夕まつりや子どもたちのゲーム大会などのイベントを三者が協働して実施しています。

結崎駅前の再開発の完了は令和4年度中の予定。新たな駅前でも、植栽をはじめさまざまな企画を考えているとのこと。今後、皆さんの花やイベントで町に彩りと憩いを添えてくれることでしょう。



手づくりとは思えない大規模イルミネーション

虫いっぱいの里山づくり隊

生物を身近に感じる里山から、 自然の魅力を発信

『里山』とは、単に「人里近くにある山」のことではありません。昔から人々が生活のために利用してきた山のことをさし、いわば、人が手を入れることで、つくり、守られてきた自然。この里山を再生しメッセージを発するのが、虫いっぱいの里山づくり隊です。



虫いっぱいの里山づくり隊 代表

みやたけ よりお
宮武 頼夫さん

〈現在の定例活動日〉

毎月 第2水曜日
第4日曜日



虫いっぱいの里山づくり隊 副代表

やまもと かつみ
山本 克巳さん

人と自然に優しい里山を
次世代に提供するために

檀原市昆虫館に隣接する南山には、山全体をぐるりと散策できる観察路が設けられ、虫を探するなど自然を楽しむ親子連れの姿が見られます。ここを拠点に活動しているのが、虫いっぱいの里山づくり隊です。

隊の始まりは、平成16年に設立された「虫いっぱいの里山づくり実行委員会」から。当時の昆虫館学芸員だった方が、「ここを子どもたちが思いっきり自然を楽しめる場所にしたい」との想いで発案。これに賛同する人たちが、主に子どもたちを対象にしたイベントなどを開催、18年には里山づくり隊を結成し、里山づくりに乗り出します。

目指すのは、人と自然に優しく、美しい景観を生み出す里山。隊による里山づくりは、木や下草などを伐採するところから始まりました。

「当初は、足を踏み入れるのも困難でした。」と話すのは、代表の宮武頼夫さん。まずは、整備範囲を区画分けして測量するところからスタートし、下草や笹刈り、木の伐採など、ほぼ全て隊員による手作業で整備したそうです。

今ある観察路の内、南部分は檀原市の公園計画によって整備されたのですが、山の頂上から反対側を巡るルートは、こうした里山づくり隊の地道な活動によって切り開かれたものなのです。

里山を自然との触れあいを楽しむ
ミュージアムに

道や階段を新設することで、里山を一周する観察路が完成、子どもたちも安全に散策や虫取りができるようになりました。「急な坂道を造つてあるのは、子どもたちの冒険心を刺激するためです」と、遊び心も。

さらに、観察路の順序を間違わないようにポイント表示板を立て、木に樹名板を取り付けました。また、必要最小限の手すりも設置。これらの素材はプラスチックや金属を避け、極力自然のものを使っています。

「昆虫館で標本などの資料を見るだけでなく、実際に里山へ出て自然との触れあいを楽しむ、フィールドミュージアムを目指しています。全国の自然系博物館でも、すぐ裏に里山を持っているところは少なく、非常に得難い環境でしょう」と宮武さん。



順路を示すポイント表示板(右)も、樹名板と括り付ける紐(左)も、自然の素材



来館する子どもも大人も里山クラフトに夢中
上 ミニ門松づくり
下 季節に応じてメニューはさまざま



観察路に階段をつくる場合も、伐採した木を材料として使用

多様な環境と景観づくりは 常日頃の手入れから

里山の整備には終わりがなく、常に手入れが必要です。草刈りや笹刈りはエリアを決めて刈り取る時期をずらししています。「刈り取った所、ちよっと茂ってる所、生い茂った所など、段階的にモザイク状になるよう工夫すると、変化に富んだ景観やそれぞれの環境を好む昆虫が見られるようになります」。

刈った草や笹は、運び下ろすことはせずに林の中に残すことで、豊かな土壌を育み、昆虫をはじめ生き物たちの住処などに利用できるようにしています。また、伐採した木は手すりや階段の材料として活用しています。

隊では、平成24年から毎年4〜11月の毎月一回、チョウの観察調査を実施。「確認されたチョウは62種類で、これは近隣の大和三山に比べてはるかに多い。希少なチョウも見つかっています。我々が作った池には、県のレッドデータブックに載っているクロゲンゴロウや、珍しいトンボもやって来ました」。これらは、里山整備活動の成果ともいえます。



下草刈り、笹刈りなど常に手入れが必要

里山のファンを増やし 後継者の育成を目指す

里山整備のほか、昆虫館の展示ガイド、昆虫や植物の観察会、独自のイベントなど活動も多彩。中でも好評なのが、里山で伐採した竹や木を材料としたクラフト体験です。手づくりするのは、凧、竹雛、うちわ、クリスマスリース、ミニ門松と、季節に合わせてさまざま。

また最近では中断していますが、県立御所実業高校の生徒と一緒に活動したこともあります。「高校生は、ふだん接点のない世代と一緒に活動することでコミュニケーション力がアップし、研究発表の機会が増えたことでプレゼンテーション能力も身につけて、就職活動に役立つそうです。将来的には高校との連携などを図り、若い人を育てていくことが大切です」。

昆虫館や里山で自然の魅力に目覚めた子どもたちが後を引き継いでくれることを願いつつ、里山の整備・保全に勤しむ日々を重ねてゆきます。



詳しい活動内容や参加希望者は、
檀原市昆虫館 ☎0744-24-7246 へ。

ご活用
ください!

なら四季彩の庭づくりアドバイザー制度



景観デザイン、造園、植物の育成・管理等について、実務的・専門的知識を有する方々を「なら四季彩の庭づくりアドバイザー」として派遣します。

■ 対象となる事例

植栽等による魅力ある地域づくりのため、以下により開催する講習会や勉強会等

- 「良好な植栽景観の保全・創出・活用」
- 「普及啓発・担い手の育成」
- 「植物の育成管理」
- 「その他知事が認めるもの」

※以下の条件を全て満たす必要があります。

- ①県民、県内への通勤・通学者を対象に、県内で開催
- ②参加者が原則として複数名
- ③政治、宗教又は営利を目的としない
- ④社会貢献活動の一環として行うもの(事業者のみ)

■ 派遣対象者(申請者)

自治会・学校・事業者・地域グループ等、地方公共団体



注意事項

- 派遣するアドバイザーを指定することはできません。
- アドバイザーへの謝金・旅費以外の諸費用については申請者の負担となります。
- アドバイザーは可能な限りの助言・講演等を行います。必ずしも課題等の解決をお約束するものではありません。あくまで一つの助言・参考意見として、申請者のご判断の下、ご活用ください。

申請方法等詳細については下記 HP をご覧ください

なら四季彩の庭

専用ホームページ▶▶▶



お問い合わせ

県環境政策課

電話 0742-27-8663 / FAX 0742-22-1668



こちらもご活用ください!

馬見丘陵公園 園芸相談

0745-57-3987

毎週木曜

(祝日・年末年始除く)

10:00~12:00

14:00~16:00

植物の育成・管理等について
電話で相談できます。



令和2年度きれいな奈良県づくり功労者受賞者が決定しました!

「きれいに暮らす奈良県スタイル」行動計画に基づく各主体の実践活動を促進し、全県的・継続的な県民運動を誘発・普及していくため、行動計画の推進に貢献している団体等に対して「きれいに暮らす奈良県スタイル」推進協議会会長(奈良県知事)から令和3年2月5日に表彰されました。

■ 受賞者一覧(5件、敬称略)

【川のきれい化部門】(1件)

- ・菩提川を汚さない会

【景観づくり部門】(3件)

- ・いこま里山クラブ
- ・奈良トヨタグループ
- ・萩乃里自治会

【循環型の生活スタイル部門】(1件)

- ・明日の的野を創ろう会



きれいに暮らす

奈良県スタイルジャーナル 第15号

2021年3月発行

発行 / 奈良県 水循環・森林・景観環境部 環境政策課

〒630-8501 奈良市登大路町 30

TEL.0742-27-8663 FAX.0742-22-1668